

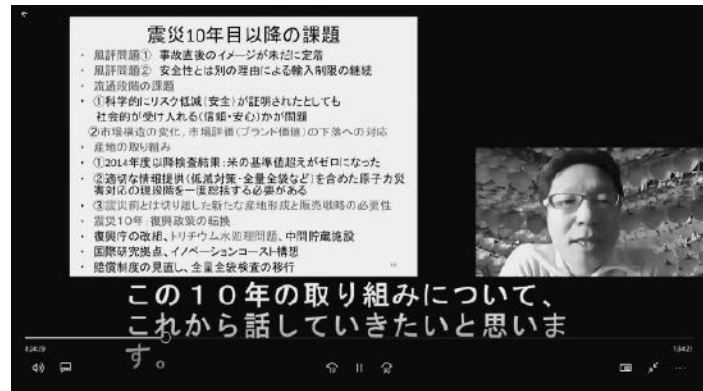
会

K A I - H O U

報

No.356

2022.1.1



2021年度生協大会(講演:福島大学 小山教授)

	新年のご挨拶	1
[開催報告]	2021年度生協大会	2
[開催報告]	オンライン組合員活動交流会「コロナ禍の組合員活動パートⅡ」	3
[連載]	「サラダボウル〜ひとりひとりが輝いて〜」	4
[スケジュール]		5

年頭挨拶



大阪府生活協同組合連合会
会長理事 タン ミッシェル

皆さま、あけましておめでとうございます。

2021年は引き続きコロナ関連一色、課題山積の1年でしたが、中止の多かった2020年と比べて、オンラインツールの一層の活用により、例年の各種の活動は、ほぼ予定通り遂行でき、大きな前進もみられました。

コロナ禍中の重要な取組みとしては、2020年から始めた、生活に困窮している府内の大学生のための食料支援を継続しました。この活動には大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会（OCoNoMi おおさか）の参加団体から食材など協力いただきました。また、新しい取組みでは、大阪府による「困難を抱える女性の支援」の一環として推進されているシングルマザー応援事業に協力し、大阪府生協連の会員生協に呼びかけ、大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）に新設された女性のためのコミュニティスペースに、衣類や下着、化粧品、子供用オムツ等の物資を提供しました。

2021年を振り返ってみると、皆さんにとって、Zoom 会議は職場の「ニューノーマル」を象徴するものになったのではないのでしょうか。

ところで、「ニューノーマル」といえば、コロナ禍の当初から耳にするようになりましたが、イメージが湧きにくい言葉ですね。語源を調べてみると、初期のフェイスブックの投資家だったロジャー・マクナミー氏が執筆した「The New Normal」と題する本（2004年出版、2008年に日本語版出版）がニューノーマルという流行語を普及させたようです。当時、テロやグローバルバリエーションによる事業の海外移転などの世界的な不安定な状況の中、インターネットの発展によるビジネスモデルや経済理論の変革をポジティブな視点から論じた一冊です。また、2008年に、米国の住宅バブル崩壊が引き金となった世界規模の金融危機（通称：リーマンショック）が起こった際にも流行した言葉でそれ以降、様々な機会に使われてきました。

定義しにくい言葉ですが、概していえば、社会に大きな変化や危機が起こり、それが起こる以前と同じ状態には戻ることができず、「新たな常態・常識」が定着する社会や経済の実態を意味します。

今回のコロナの世界的流行による危機とニューノーマルの関係を考えると、確かに上記の定義通り、日本の社会・経済は大きく変化しており、以前の状態に戻れず、新たな常態・常識が定着しています。この現状を考えると、悲しい面もありますが、私たちの公私にわたる生活を見直す機会として捉え、新しい発想を産むことは、社会の改善につながるチャンスにもなります。ニューノーマル時代に、生協が得意とする人と人のつながりや連携を重視する活動のモデルが、一層発展することを願っています。

最後に、コロナ感染以外のグローバルな課題に触れておきたいと思います。最近、COP26（国連気候変動枠組条約第26回締約国会議）がグラスゴーで開催され、CO₂の排出量について2050年までの大幅な削減の必要性が合意されました。一方、より近い期限である2030年までのSDGsの17目標の実現も急務となっています。この2つのグローバルな重要課題にも取り組みつつ、今年1年の活動を推進していきましょう。

本年も、どうぞよろしく願い申し上げます。

2021年度「生協大会」をオンライン開催しました

11月24日(水)、生協大会を、昨年に続きオンライン開催し、約200名が参加しました。

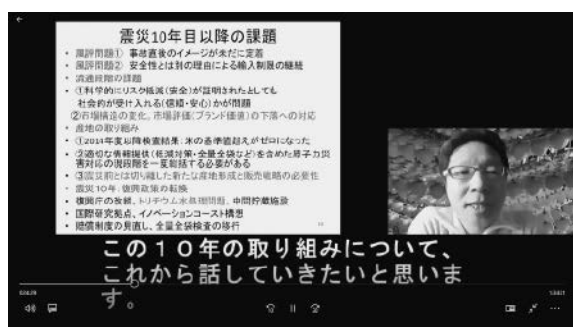
今年の生協大会は、テーマをSDGsの理念「誰ひとり、取り残さない 持続可能な社会づくりをめざして」としました。

記念講演は、福島大学 食農学類の小山良太教授から、「東日本大震災・原子力災害から10年～協同組合間協同による食と農の再生」と題して、福島県での協同組合と福島大学の連携組織の体制、福島大学で2019年に開設した食農学類について、ALPS処理水の海洋放出に関する取組、震災10年目を迎える食と農の課題などについてお話いただきました。

その後、会員生協のSDGsに関わる取り組みの報告を行いました。こくみん共済coop大阪推進本部からは、子どもの健全育成の取り組みとして、7才の交通安全プロジェクトの活動、防災・減災の取り組みとして体験型防災イベント、環境保全・子ども健全育成の取り組みとして子ども絵画コンクール等について報告されました。近畿大学生協からは、コロナ禍での大学生の実態調査と、大阪での大学生への食の支援活動、行政の災害備蓄用品を再利用した生理用品支援活動、地域の防災イベントへの出展活動について報告されました。医療生協かわち野生協からは、コロナ禍での医療活動について、発熱外来の開設、全国に先駆けてコロナ往診の開始、組合員や職員のマスクやフェイスシールドづくり、全国からの様々な支援、ウィズコロナ・アフターコロナの医療活動等について報告がされました。

記念講演と取り組み報告への質疑応答を行い閉会しました。

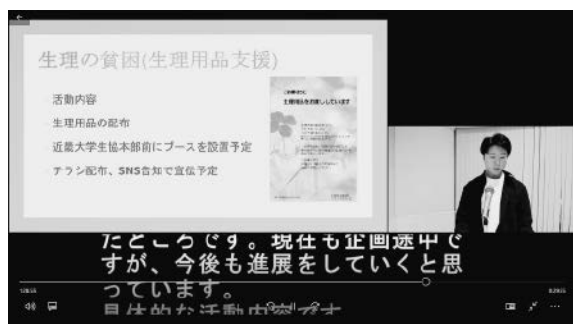
生協大会の動画は、大阪府生協連ホームページからご覧いただけます。



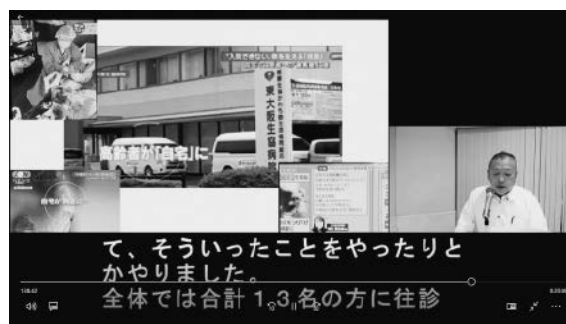
福島大学 小山教授



こくみん共済coop



近畿大学生協



医療生協かわち野

オンライン組合員活動交流会 「コロナ禍の組合員活動パートⅡ」を開催しました

2021年12月6日(月)、オンライン組合員活動交流会「コロナ禍の組合員活動パートⅡ」を開催し、14生協65名が参加しました。

前回5月に開催した交流会では、コロナ禍により、組合員活動が停止や制限等を受けている中、他生協の取り組み事例の報告と各生協の状況を交流し、「他生協と交流が出来良かった」「定期的に開催してほしい」と大変好評でした。

そこで、今回の交流会では、「コロナ禍での組合員活動の担い手づくり」をテーマに、この2年、対面での活動が制限された状況において、組合員活動の担い手づくりをどのようにしているのか等を交流しました。

前半は、共通の話題提供として、大阪いずみ市民生協、大阪きづがわ医療福祉生協、大阪樟蔭女子大学生協から事例報告をしました。

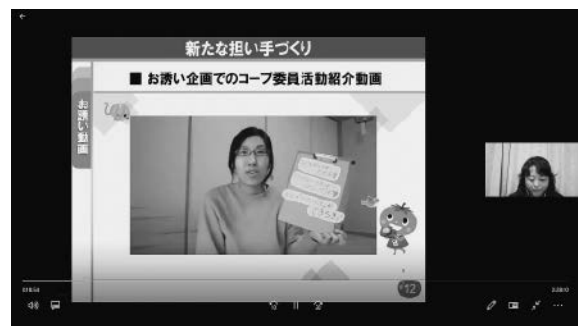
大阪いずみ市民生協からは、オンラインによる企画を積極的にチャレンジし、生協の活動に初めて参加する組合員を増やし、その中でコープ委員の登録者も出来たこと。オンラインでのコープ委員お誘い企画を実施し、活動紹介やコープ委員の声の動画を上映していること。更なる環境整備として、コープ委員、総代、専門委員等にタブレット貸与等が紹介されました。

大阪きづがわ医療福祉生協からは、同生協における活動の担い手とはどのような役割の人となるか。コロナ禍で活動が休止する中、新たに「おそうじ班会」や「オンラインバスツアー」に取り組んだこと。暮らしの助け合い「おたすけボランティア」の活動と支援者づくりの取り組み。生活困窮者支援の無料低額診療事業や生活保護取得支援の活動等が紹介されました。

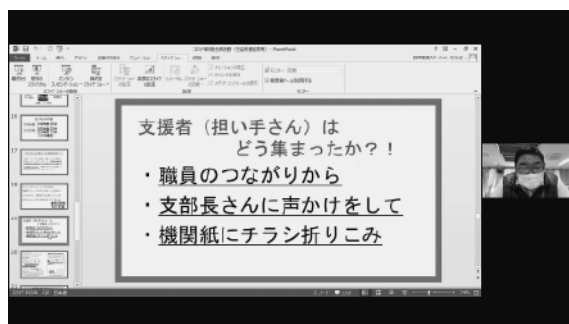
大阪樟蔭女子大学生協からは、授業で当日参加が出来ない為、音声付きスライドにより、生協学生委員の活動紹介、大阪府生協連と連携し、大学生への食の支援、大学外部の団体と連携し、シングルマザー応援企画への参加、環境活動としてプラスチックごみの分別回収、防災減災企画への参加等が紹介されました。各生協への質疑応答で更に学びを深めました。

後半は、ブレイクアウトルーム機能を使って参加者交流をしました。生協によって組合員組織の体制も、委員会などの名称も違うため、各生協の組合員組織体制図と各種委員会の概要の資料を参考に、事例報告の感想や、活動の担い手づくりの状況、工夫や課題等について交流しました。

全12グループから交流内容のミニ報告をし、閉会しました。



大阪いずみ市民生協



大阪きづがわ医療福祉生協



大阪樟蔭女子大学生協

サラダボウル

～ひとりひとりが輝いて～

大阪いずみ市民生協の男女共同参画の取り組みについて

大阪いずみ市民生活協同組合
理事 椿原 雅子

大阪いずみ市民生協は、理事会の諮問機関として男女共同参画委員会を設置しています。委員会では、社会や家庭、職場で、性別を問わず、誰もが一人の人として尊重され、お互いに認め合うことをテーマに掲げています。そして、社会や組合員の生活場面での気づき、職員の労働環境における男女共同参画をすすめるため取り組んでいます。

大阪府やエリア内市町村の男女共同参画担当部署を訪問しての情報交流、組合員向けの学習・体験の企画、いずみ市民生協機関誌コラムでの情報発信等を行っています。委員は、情報収集のため持ち回りで新聞記事や情報を報告し、感想を交流するミニ学習を行っています。

最近の学習内容は、子どもであっても家族の世話を担うヤングケアラーの存在や、コロナ禍の今浮き彫りになった生理の貧困、メダリストという立場をLGBTQへの理解促進に活かしたいとメダル獲得後に公の場でカミングアウトしたオリンピック選手の話など、内容も多岐にわたり、私自身、気づきのある時間となっています。

先日、機関紙に生理の貧困に関するコラムを掲載しました。組合員からは、「困っている子がいたら力になりたい」や、「生理用品だけでなく、食べ物や他の物もどうされているのか心配」などの感想が寄せられました。組合員の温かい気持ちに触れ、私たちの学習だけに終わらせず、組合員とも情報を共有し、問題意識が伝えられたことを嬉しく思いました。

また、組合員向けや役職員向けの企画も具体化しています。昨年度の組合員向け企画では、仲岡しゅん弁護士をお招きして、LGBTに関わるお話をいただきました。「その人のあり方がなぜ阻害されるのか、生きづらさは何に由来しているのか、その原因を考える機会」となりました。オンラインを含め70名を超える参加となりました。

役職員向けには、イクボス学習会を開催しました。こちらは、NPO法人ファザーリング・ジャパン理事の安藤哲也氏にお話をいただきました。イクボスが組織にもたらすメリットや情勢から見た必要性、管理者が実践する場合の具体的なヒントを習得するため、管理職97名が受講しました。今後も学習の場を提供していきます。

男女共同参画としての視点は、まだまだ学ぶことが、たくさんあると感じています。知らず知らずに、人を傷つけているかもしれません。相手を知ろうとすること、大切に対応すること、そして個人の尊厳を守れるように今後も学習を深め活動していきたいと思っています。



スケジュール

1月

- 7日(金) 健康チャレンジ実行委員会
- 10日(月) 日本生協連全国方針検討会議（～12日）
- 13日(木) OCoNoMi おおさか第8回幹事会
- 18日(火) ホットネットおおさか（大阪府下避難者支援団体等連絡協議会）定例会
- 19日(水) なにわの消費者団体連絡会幹事会
- 19日(水) 第6回生協大会実行委員会
- 20日(木) 第4回理事会
- 24日(月) 学生総合共済推進に向けた懇談会
- 26日(水) 第4回組織活動委員会
- 27日(木) 日本生協連第4回県連活動推進会議・関西地連第4回運営委員会
- 27日(木) 消費者支援機構関西（KC's）理事会

2月

- 1日(火) 第29回ワン・ワールド・フェスティバル配信（～2月28日）
- 4日(金) 健康チャレンジ実行委員会
- 6日(日) オンラインファミリーコンサート
- 16日(水) 第4回大規模災害対策協議会
- 16日(水) なにわの消費者団体連絡会幹事会
- 22日(火) 消費者支援機構関西（KC's）理事会

3月

- 3日(木) 第4回ジェンダーフォーラム協議会
- 4日(金) 健康チャレンジ実行委員会
- 6日(日) 大和川・石川クリーン作戦
- 11日(金) 近畿地区生協府県連協議会（大阪）
- 15日(火) 会報発行
- 16日(水) 第1回生協大会実行委員会
- 16日(水) なにわの消費者団体連絡会幹事会
- 17日(木) 第5回理事会
- 23日(水) 第5回組織活動委員会
- 23日(水) 消費者支援機構関西（KC's）理事会
- 31日(木) 日本生協連地区別方針検討会議・関西地連第5回運営委員会